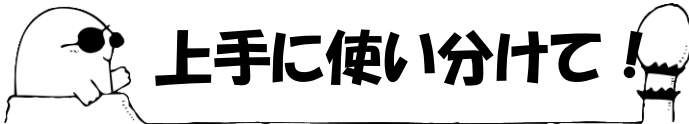


忙しい中にも オンとオフを



バレリーナの吉田 都さんのインタビューからお届けいたします。

※教職員のための 共済フォーラムより

プリンシパル～～舞台の主演を演じる最高位のバレリーナ。世界三大バレエ団の一つで、この大役に日本人女性で初めてのぼりつめたのが 吉田 都さんです。

バレエに心血を注いでいた学生時代に周囲のサポートがなければ、今の自分はなかったと語っています。



～心と体のケアはどうしていましたか？

吉田さんの言葉

自分を追い込んで舞台を作り上げていく一方で、終わったらバレエを忘れてリラックスするようにメリハリを意識的につけていました。仕事仲間ではない人との交遊関係を広げ、バレエ以外の話をして気分転換していましたね。

また、けがなど自分ではどうしようもない困難に遭遇したときは、

焦らずに休むことも

仕事の一部だと

経験から学びました。



～子どもたちを指導する際に

心掛けていることは？

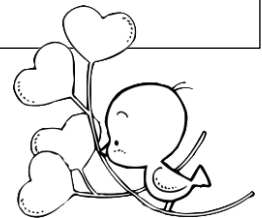
吉田さんの言葉

最初は、難しいことにトライしてほしくて技術の修正をしていましたが、生徒の表情が暗くなるばかりで（笑）。

そこで、できたことをきちんと褒めるようにしたら、やる気が出て表情も明るくなったんです。

ワークショップでは1回きりの出会いが多いので、子どもたちに踊ることの楽しさを感じてもらえるよう意識しています。

ただ、稽古とは「できないことをなくしていく作業」なので、高みを求めていく厳しさも必要。そのためには、長い付き合いの中で生徒に愛情が伝わり、信頼関係ができていることが前提です。



～先生や子どもたちにエールを！

吉田さんの言葉

報道などで知る限り、今の先生方は責任の重さと仕事量の割に時間が足りない気がします。オンとオフを上手に使い分け、ご自身をいたわってほしいですね。

また、私は小さな頃からバレエの先生に「お手本になる一流を見なさい。」と言われてきて、自分の理想のバレエを追い求めてきました。

尊敬する人からの刺激を活力にして、皆さんも理想の先生像に向かって走り続けてほしいです。